

平成30年度第2回甲賀市青少年自然体験活動推進委員会 概要報告

1. 開催日時 平成31年 3月 6日(水) 19:30～21:30
2. 開催場所 甲南青少年研修センター 会議室
3. 議 題
 - ・平成30年度甲賀市青少年自然体験活動振興計画に基づく事業実施状況について
 - ・平成31年度甲賀市青少年自然体験活動振興計画に基づく事業実施・計画について
4. 公開又は非公開の別 公開
5. 出席者 委 員 吉久委員長、横川委員、佐々木委員、山本委員、和田委員、小西委員
以上6名

事務局 教育委員会事務局 奥田次長

社会教育課 相楽課長、藤村課長補佐、玉木係長、村長主査

青少年自然活動支援センター 中江指導員、竹田指導員

6. 傍聴者数 0人
7. 会議資料
 - ・甲賀市青少年自然体験活動推進委員会 委員名簿
 - ・甲賀市附属機関の会議の公開等に関する指針
 - ・甲賀市青少年自然体験活動推進委員会規則
 - ・平成30年度青少年自然体験活動事業 実績一覧表
 - ・平成31年度青少年自然体験活動事業 計画一覧表
 - ・平成31年度(2019年度)青少年自然体験活動事業について
 - ・青少年活動セミナーについて
 - ・甲賀市青少年自然体験活動振興計画
 - ・甲賀市青少年研修センター条例
 - ・甲賀市青少年自然活動支援センター設置要綱

8. 議事の概要

○出席委員数の報告

推進委員会委員8名のうち、出席委員が6名、欠席委員が2名であることから、甲賀市青少年自然体験活動推進委員会規則第3条第2項の規定により、会議が成立していることを事務局から報告。

○平成30年度甲賀市青少年自然体験活動振興計画に基づく事業実施状況について

委員長 第2回の推進委員会開催で、30年度の事業実績、31年度の事業計画について、ご討議ご意見をいただければと思いますのでよろしく願いいたします。

事務局 事務局説明

委員長 30年度の事業について、甲賀市青少年自然体験活動振興計画に振り分けて報告いただきました。1年間の事業になり細かい項目になりますが、色々な面から細かいポイントでも全般的なこと、一般的なことでも結構ですので委員から意見をいただきながら会議を進めて行こうと思います。

委員長 県が夏休み前に夏休み中の事業やイベントを一覧にした冊子を学校に配布しており、平成31年度についても配布と聞いていますがどうでしょうか。

委員 あります。体験活動ができそうな内容のもので、県の知事部局の発行だと思います。

委員 県の子ども・青少年局だと思います。

委員長 次の夏にボーイスカウトの色々な活動を提出するのでどのようなものかと思いました。また、ここでの啓発という部分と関連できるのかどうか、状況をご存知であればと思い聞いてみました。

委員 非常に人気のある冊子です。ものによれば、何日に配布してください。といわれることがあります。先着予約があって、早く配った学校が有利になってはいけないというのがあります。子どもが持って帰って申し込みをしたら定員いっぱいという話は聞きます。

委員長 色々な情報があるほうが見て楽しいと思います。市の情報だけではなかなか見ないと思います。

昨年冊子は残っていますか。

委員 そのあたりの事情を現場の者として言いますと、冊子は夏休み前に配布されますので情報を集めるための締切が早くなっています。たとえば夏休みの何月何日

にする、定員やタイトルなどの項目が決まっていると提供しやすいのですが、そうでなければ提供は難しくなります。

参加される方にとっては県であろうが市であろうが民間であろうが関係がないことですので、おそらく楽しみにしてご覧になっておられることだと思います。

委員長 今の社会でしたらきっかけというのも必要かと思います。他、何でも結構ですのでありましたらどうぞ。

委 員 最初のマニュアルの提供と活用ですが、事業では配布できなかったということですが、何かあったのですか。できなかった理由はありますか。

事務局 6月の第1回指導者等研修会で配布を考えていましたが、参加者されたメンバーを見てすでにお持ちの方が多かったため配布しておりません。青少年活動セミナー開催のときも配布しておりません。

委 員 安全対策のマニュアルなので参加されている方は必要でないと思いますが、参加されていない方に配布するのが必要ではないかと思います。例えば、子ども会の役になられた方を対象にお送りするのも方法だと思います。

委 員 あるいは、皆さんスマートフォンをお持ちなので、ホームページに掲載しておき事業を始める前に、「皆さんスマートフォンを開いてください」とすれば、その場で研修が始められると思います。そうすれば効率よく使えると思います。

委 員 経費はかかりませんし、拡散もします。このようなことも実施しているのだという認識もされます。

委 員 ついでに事業広報も掲載すれば、このようなチャンスもありますよということも広報できると思います。

委員長 あのマニュアルは使いにくい、現場では使えないという声を聞きます。もう1つ言うならば、14ページに何をすることが記載してあります。30年度の事業で対策マニュアルを配布と書いてありますが、そうではなく、「それぞれの活動にあっ

たマニュアルを作成して提供する」と書いてあるので、活動にあわないところにあの冊子を配布しても気の毒だと思います。委員がおっしゃっていただきましたようにマニュアルを使うにしてもその団体にあった情報に作り変えるというステップが必要だと感じます。ここにマニュアルだけを配布と書いておくと配布して終わってしまうのだと思います。

色々な形にするか、抜粋するか、簡単にするか、活動に合ったものにするなどする必要があります。またマニュアルは地域の野外活動を意識して書いておりますので、学校なら学校に合ったものが必要になりますし、そこが課題になるのではないかと思います。

安全対策マニュアルの在庫はありますか。

事務局 数は少ないですが、製本したものはあります。

委員長 このマニュアルを増刷するより、改訂したほうが良いと思います。このマニュアルをベースに別のものに作り変えることが次の作業になると思います。

委員 インターネットで公開してはという意見がありますが、掲載されていますよね。ただ階層が深くて見つけにくいです。

委員長 ホームページには、冊子どおりにあるので探す人からするとそこまでたどり着くのが大変で、たどり着いたところでどのように活用するのかという2つの課題があると思います。

委員 まとめて掲載しているのでわからないのだと思います。全部掲載したところで読むことができませんので、細かく分けて載せるほうがよいのではないのでしょうか。

すでにネットでオープンにされているのであれば、今回はこの部分を再掲するという方法はいかがでしょう。全部掲載しなければいけないと思うと見ていただけのものも見ていただけません。ネットに掲載するだけなら経費もかかりませんし、若い保護者ならスマートフォンやタブレットを持っておられる方も多いので、検索して見られると思います。紙媒体で配布するより効果的だと思います。ここに掲載していますと広報しているほうが良いと思います。

委員

今の学校の教育が平成32年度から新学習指導要領に変わっていきます。学校の方針の大綱ですが、何が変わってきたかといいますと、今までですと学習すべきことをきちんと正確に身につけて使えるということが、大事な力、生きる力だと言われてきました。しかし、だんだんAIが進化してきたので知らなくてもインターネットの検索エンジンで調べることができます。数式を身につけていなくてもむしろ色々なことを活用したり、自分で課題を解決して乗り越えたりする力こそ付けなくてはならない。資質、能力という言葉がこれからのキーワードになります。何ができるかということだけではなくて、それをどう使えるか、それを使ってどのようによりよい人生、社会を創っていったり、生きていったりできるのか、組み立てていく力が必要になってきています。

改めて自然体験活動の場というのは、まさに、自分で学んだことを活かしてみる、実際使ってみる場であると思います。それでもできないことやわからないことに出会ったりして、このようなことを知っていなければできないのだと感じる必要があります。例えば、気象のことを知ろうと思えば学校で理科の勉強をしなければいけないというように行き着くことになります。自然体験活動は意味深い活動だと思います。本当に教育熱心な保護者に言うのであれば「自然体験活動はしたほうがいいですよ」と、学校でも宣伝したいと思いますが、机の上で学べることで人生豊かに生きていけるかといえばそうではないと思います。安全対策マニュアルの8ページにこれに近いことが書いてあります。「失敗も繰り返しながら、これから自分が生きていく上での大切な基礎となる様々な体験から学び、自分の体と心に刻みつけていくのです」響くところがあります。これからの教育ともうまくかみ合っていくものだなと改めて感じています。

委員長

地域の青少年活動といえば「子ども会」という一言で済んだのですが、子ども会といっても活動があまりされていません。どんな時代もみんな学校に行きますので頼るところは学校となります。しかし、学校も先生がそのような活動も様々な事情でできないということもあります。学校で教育方針の変化に伴ってできることがありそうなのかどうなのか。例えば、私は、兵庫県では全員宿泊をしているという話を聞きます。滋賀県ですと、うみのこ、やまのこがありますが実際どうなのか。子どもの森ではそれを受ける事業もしていただいています。学校教育の中で実際どれだけできるのかいつも期待していますが、事業を行なうのも大変だと思っています。今後はどうですか。少しはよくなってくるのでしょうか。

委員 授業時間数がさらに厳しくなっています。外国語活動、英語が5、6年生に入ってきております。5、6年生は時間が厳しく、市によっては夏休みの終わりを削るなどをするとところが出てきています。甲賀市はそこまで行かないようにしていますが、1学期の終わり、2学期の初め、終わり、3学期の初めは半日で給食がなかったのですが、来年度に限ってはこれらの日も給食を食べて、午後、5時間目、6時間目まで勉強するように市内統一となったくらいです。その他インフルエンザによる学級閉鎖や台風で急に休みになったりすると本当に日程的に厳しいので、その中のやりくりで、1泊の宿泊キャンプを入れることは難しい状況です。甲賀市では宿泊を伴う事業はフローティングスクールだけだと思います。湖南市は学校によっては、「森の未来館」へ行って1泊2日でやまのこ学習をしています。私も行かせていただきましたが、意味があると思います。それも組み入れられたら良いのですが、そのようなことも1つだと思います。

いま授業数が減り続けていますので、大きくいこうと思えば、PTAで保護者親子活動を行なうという強い思いを持っていただければ、学校もお手伝いもできるかもわかりません。

委員長 地域も休日にうまく利用できたらいいのですが、地域にも受け皿になる力がないという状況です。

委員 ひところに比べるとスポーツ少年団加入率も減ってきているように思います。

委員 皆さん集めるのに苦勞をしておられるでしょう。団の合併もしています。

委員 合併して、三重県と組んでおられるところもあります。

委員 ボーイスカウトもガールスカウトも同じです。

委員 ガールスカウトも会議に行けば、会員を増やすように言われます。

委員 子どもたち自身は変わっていない。結局まわりの環境が変わっており、家庭の状況も変わってしまっている。核家族に完全になっていますし、近所で子どもたちが余暇時間に遊んでいるのを見ていても、同年で横つながりだけの集団だけしか経験していないように思います。学校はもちろん学年ですし、何歳かの幅の子

どもたちのグループが活動しているのは本当に少ないと思います。ボーイ、ガールスカウトはそのことを前提にプログラムは組まれているのですが、それは私達の子どものころと違って、あまりに現実とギャップがあるため子どもたちは逆にストレスになるケースがあります。

私の区では、一昨々年まで子ども会がありませんでした。団地が高齢化してしまい高齢者だけになり、子どもがいなくて子ども会がないという状況でした。若い方が入ってこられて、子どもが10人くらいになり、一昨々年に子ども会を立ち上げました。子ども会を立ち上げても今の保護者は、自分の子どもの頃にはこのように遊んでもらったという経験がありますが、いざ自分たちがするとなると何をしようかわからず、一からやり直しという状況になっています。

委員

保育園、幼稚園ですが、お話を聞いていると学校から全てが始まるのではなくてその土台には保育園、幼稚園の教育があります。今年度から0歳から教育が始まっております。保育園、幼稚園も自然に自ら関わっていく力であったり、自然体験では人との関わり、社会性が育っていくということであったり、失敗というところで、次の手段を考えるというところも幼児教育の中では資質、能力という点で組み込まれてきています。保育園、幼稚園では、土山にここ園に田んぼを一反貸していただいて、そこで好きに遊んでもらってもいいよと地域の方がおっしゃっていただいて、泥んこになって遊んでいます。甲賀地域では園庭の中で木登りもしています。水口エリアでは土壌のところが少なくなってきましたが、伴谷ではひのきが丘公園の土手を登ったり、ダンボールで滑ったりしています。子どもたちは、設定された中では遊ぶのですが、主体的に遊んでいくというところはこれからの課題なのかなと思っています。

最近、好意的にここの田んぼ使ってもいいよと言っていたり、落ち葉を集めるのにこの土地使ってもいいと言ってくださったりすることも増えてきました。保育園、幼稚園は特に地域なのかなと感じさせていただいております。地域とともに自然体験ができるような保育内容も考えていかなければならないなと思っています。園に対しては好意的に地域の方が繋がっていただけたり、子どもたちの手作りのもののお礼をしたりすることで様々なつながりが増えていきますので保育の中で自然体験を大切にしていきたいと思っています。

委員長

その年代その年代の大事なことがあると思います。ただ、そのような機会を見せていただくことも多いので実施されているのだなという印象はあります。例え

ば、保育園が今後民間の運営に移り、建てかわったり、より町の中に入っていくことでどれだけ土の部分があるのかなと思います。色々な部署も変わって一括して子どもを施策として捉えていこうという動きがあるので、昔よりは良くなっていると思います。そのあたりを教育として捉えるのはどうでしょうか。

委員

一部ですが、子どもの森でも支援しています。今、木を使った普及、教材化というのをしております。例えば今年度の2月には保育園には3件出張して木について知っていただく活動をしました。昨年度は6件行きました。例えばのこぎりを使って木を切るなど、それをよく観察してもらうような教材やプログラムを開発しようとしています。それとは別に小学校でも時々呼んでいただく機会があり、観察や教材のご相談にのることもあります。ただ、保育園、幼稚園と小学校は別々に進んでいるかなと感じています。例えば小学校の先生方に幼稚園にこのようなことができますといってもあまり関心がないようです。見学などをされたらよいのではないかと思います。そのようなことはなかなかありません。保育園、幼稚園の先生が小学校でどのようなことをしているのかご覧になる機会というのはあまりないように思います。園と学校が隣り合っているところはそうでもないようですが、それが例外なくらいです。

木を使ったものを保育園でも実施していたのですが、その子たちが小学校に行くと図工や、やまのこで木を使うようなことがあると思うのですが、先生方はこの子どもたちが保育園でどのようなことをしてきたかをご存知ないままに、子どもたちは学校を卒業してしまうので、繋がらないのはもったいないと思います。なんとかなる方法はあるのでしょうか。

委員

今、学校でその問題は感じておまして、幼児教育と学校との接続、小学校と中学校の接続は大事にされてきています。小学校に繋いでいくために保育園幼稚園で何をどんなことをしているのか、何をねらいとしてどんな活動をし、教材は何を使っていたか、子どもたちは何ができるようになってきているのかを信楽地域では作成し一覧にまとめています。

おっしゃるように、そのあたりがうまくできていませんでしたので、知らずに小中学校を卒業していることもあるので、そのあたりを大事にしようという動きが出ています。小中連携といわれるようになり、教育を小学校と中学校で9年間とっています。しかし前（保育園・幼稚園）も繋いでいこうというのが大事だと思います。

委員 今保育園、幼稚園ではアプローチカリキュラムというのを作成していて、そのアプローチカリキュラムを小学校に繋ぎ、小学校はスタートカリキュラムというので保幼小の連携を図っています。学校教育課と保育幼稚園課とも合同で会議もさせてもらい、園での子どもの育ちを学校に繋げるということを来年も重点でしていくことになります。中部小学校と甲南南保育園が新1年生と5年生と一緒に創造の森へ散歩に行って、創造の森で体験するというのも今年度は保幼小の連携の中で、取組としてはさせていただいています。

委員 仕事としてのかかわりは大変ですね。子どもの人数は減っていますので、子どもにもこのようにしてほしいという潜在的なものが大きくなっています。私たちは公教育から外れた外側のところで、社会教育の立場で子どもたちと関わりますから、私達の視点で、社会教育の部分で子どもたち一般を見ていますと昔と比べたら体験が貧弱だと思います。先日の青少年活動セミナーでも話が出ていましたが、「川に近寄ってはいけない」という看板が立っているのをみて「腹が立つ」という方がおられました。それは安全の裏返しになるのですが、それをどのようにカバーするのかという問題になります。我々の分野のところでは昔から動いている団体以外の人たちがもう少し動いていただければと思います。その中で先日のセミナーに来ておられた団体の話を聞いていると「もっと体験に来て欲しい」とおっしゃられています。しかし、来てもらったら自分の施設なので事故が起きないか心配をされています。このような人たちが出てきていただくと子どもたちの遊び場ができるのでよいと思います。

委員長 ありがとうございます。そのあたりは次年度のところで、具体的に触れたいと思います。それでは、夏の長期キャンプの評価をお伺いしたいと思います。

事務局 昨年の夏のキャンプは台風で中止になりましたが、今年は天気に恵まれて実施することができました。事故なく終えられたのは1つの成果だと思います。リーダーによる指導についても、事前の準備ができておりうまく子ども達に接して頂けたと思います。子どもたちの生き生きとした姿もありましたし、中学生が下級生の子を見てあげる姿も見られたことから一定の成果はあったと思います。

委員 青年リーダーは何人参加されているのですか。

事務局 21人です。希望が丘文化公園所属のリーダーにも参加していただきました。

委員 2人に1人がリーダーをつけるということですね。

事務局 今年も希望が丘文化公園で実施し、甲賀市のリーダーと希望が丘文化公園所属のリーダーと共に活動をしていただきました。

委員 表にある青年リーダー研修に入ったのは甲賀市のリーダーだけですか

事務局 そうです。キャンプの試作をしている時は希望が丘のリーダーにも入っていただいて研修をしていただいております。

委員 89人というのはそれも含めての数字ですか

事務局 そうです。

委員 2人に1人ついてもらえるキャンプはうらやましいです。それにもっとスタッフがおられますので、私たちには考えられない人数です。

事務局 面白い人間関係ができていくグループがありました。小学校4年生から参加していますので自由に動く子どもたちもいます。青年リーダーもいますがグループでは中学生が中心になって活動しています。中学生が自由に動き回る子ども達にジレンマを感じて悩んで、リーダーたちに相談しながらそれを解決していくという姿が見られました。実際結果として解決できたかを聞いてはいないですが、人間関係を調整する様子が様々なところで見えました。また小さい子どもたちは4泊5日の中で当然できることが増えていきますので顔つきも若干変わっているというのがありました。1泊2日のキャンプでは得られないことはあったと思います。

委員 保護者には聞かれましたか。

事務局 保護者には帰りがけに聞きました。自分の子どもの変化に驚いておられました。

と 思 っ て 関 わ っ て お ら れ る の か な と 感 じ ま す。

委員長

そういうところがキャンプの成果ですのでそれでよいと思います。ボーイスカウトでは5泊6日のキャンプを行っていますが、キャンプで人間が変わって欲しい、それが良い経験になってほしいというのがあります。先ほどおっしゃっていただいたように失敗もしてということになれば、やはり4泊5日以上でないは無理だというのが一般的な基準だと思います。

来年のところでどう考えるのかになると思います。キャンプの成果であります。それが市の事業のイコール成果であるのかどうか、また来年問われてくると思います。

この年代の子ども、わずかな人数ではありますが、そういう成果を与えられるのは教育キャンプだと思います。必ずしも市がしなければならぬかもしれませんが、それなら市以外でどれだけの子どもの機会があるのかといえば、どちらをとるのかなというのを考えていかなければならないと思います。

現実、家族に連れて行ってもらえない、友達とも許可がもらえない、ボーイスカウト、ガールスカウトに入っていない、民間でも実施していないとなると市がせざるを得ないのかなと思います。キャンプの成果、効果は明確なのですが、市の事業の成果として今後も続けていくのかどうか一つの課題かなと思います。

それでは次の項目、事業計画案ということで事務局説明をお願いいたします。

事務局

事務局説明

委員長

次年度の事業について説明いただきました。

変更、新規の部分もありますので、ご質問もあるかと思っておりますので全てお話いただければと思います。

委員

親子デイキャンプですが、参加しておられる形態、親1人子ども1人で参加されておられるのですか。

事務局

ファミリーで参加される場合が多いです。

委員

この書類を見ていて、夏キャンプを水口で実施してもらえるとということで嬉しかったのです。それは近いからではなくて、使ってもらえば使ってもらうほど、

そのキャンプ場が良くなり、次に使う私たちが使いやすくなるからです。

委員 提案事業と書いてありますが、これはまったく新しい取組ですか。

事務局 はい、そうです。

委員 このような内容ですと目星をつけておかないとなかなか提案ができないと思いますが、何か想定していますか。

事務局 指導員がおりますので、指導員の派遣を考えております。

団体さんの協力が得られれば、プログラムによってお手伝いいただくことも考えています。

委員 来て下さいというところはあるのですか。

事務局 実際に広報をしてみないとわからないところはあります。

事務局 現実には指導員の派遣要請は保育園を中心にたくさんいただいておりますのでパッケージを準備して子ども会などにご紹介したときに地域に広がっていけばよいと考えています。今のところはそのような状況です。

委員長 表と繋がらないのですが、KYTはどこに入ってきますか。

事務局 言葉として挙がっておりませんが、検討事業に含まれています。

委員 具体的に場面の絵を作成するのですか。

事務局 先ほどおっしゃっていただいたように、このような団体にはこのようなKYTというように団体に合ったものの作成を考えています。

どのようなものになるかは具体的に検討して作成することになります。

事務局 市のキャンプですと現地KYTといって、活動場所に行って子どもたちに現地を知ってもらうためのプログラムを実施しています。探検という形で危険なとこ

ろを探してもらいます。自らが安全のためにどうすればよいか考える場作りを行なっております。例えばスポーツ少年団のサッカーや子ども会の活動の前にこのようなことをしていただけるように紹介ができれば一歩進むのかなと思います。

委員長 取組を拡大していくのはよいが、市だけでできるのかどうかという部分がありますね。いろいろ制約があり、一番繋がりにくいところなんでしょうけれども、次年度こそはというのはありますか。

事務局 次年度こそはというのはありませんが、以前から青少年活動安全誓いのつどいに来ていただいている講師の方々からこういうことができたらいいですねという提案をいただいております。地域で活動をしていただいている方々が一つの大きな団体になってそれぞれの活動を進めていっていただけるような活動、例えば子どもたちに自然体験活動の場を提供していただけるようなことに対して、委託ができれば、地域に溶け込んでいけるのかなと思っています。青少年活動セミナーの企画者の集まりがそのような繋がりになればよいように思っています。しかし、ここに持っていくようなところはまだ明確には示せない状況です。

委員長 参考にいうと滋賀県キャンプ協会は、実際に繋がれるノウハウもパワーもない状況です。施策としては来年くらいから繋がらなければいけません。それで慌てているところですので、滋賀県キャンプ協会として繋がるのがよいのか、別に甲賀市キャンプ協会という枠組みがよいのか、少なくとも試行錯誤はしなければいけないと思っています。相互の具体的な動きで手がつなげるところがあればと感じています。

事務局 先日参加しました関西野外活動ミーティングの話では、キャンプ協会はキャンプでつなげるキャンプがつながるというテーマでキャンプを届けていただくことを目指しておられます。甲賀市青少年活動セミナーは、県内広くリーダーが来ていただいておりますので、甲賀市のセミナーに対して、滋賀県キャンプ協会である程度イニシアチブを取っていただけるなら、滋賀県全体に広がり、そこに行政が参加していけるようなものになっていける可能性もあるように思います。そのような広がりになっていけば、市内だけでそのような団体をとというのはなかなか難しいということがありますので、どれくらいの規模でできるのかということも含めてご相談ができればと思っています。

委員長 滋賀県キャンプ協会がこの施設を借りて、少しでも共鳴できたらと考えています。

事務局 セミナー自体は皆さんで話をさせていただく場ですが、体験の実践の場をどこかのグループがしていただいたり、甲賀市役所としてはKYTのブースを持ったり、何かそういう重なりになっていけば大きなものになっていくと思います。

委員長 時間も迫っていますので青少年活動セミナーの説明をお願いします。

事務局 事務局説明

委員長 委員の中では2人参加していますが感想はどうですか。

委員 面白かったです。色々な人が集まってワークショップをしたのもそうですが、皆さん思い思いに話されていました。これまでそのような場もしていませんし、たくさん得ることもありました。それが繋がると先程おっしゃっておられた提案しておられるどこかに落とし込めたらなと期待しています。

委員長 今まで話せる場所がなかったので、いいことだと思っています。

結論的にいってしまうと、セミナーという名前が本当にいいのかなと思います。皆さん方が参加いただいているのは「関西野外活動ミーティング」という名前が付けられています。セミナーというのは話を聞きに行くという捉え方をされてしまいますので、どちらかといえばミーティングのほうが良いと思います。無理かもしれませんが、市は主催を降りたほうが良いと思います。実行委員会を立ち上げてサポーターで運営をしていただき、同じ位置に教育委員会も入るなどする。しかしサポーターのお世話はしっかりしていただくと。早いうちに主催を実行委員会に持っていけばいいと思います。

委員 そのほうが、広がりができるのではないかと思います。

セミナーではなくて協議会など何々会などという名称がついて、セミナーではなくて定期的に集まって話をされているような場ができるといいと思います。セミナーは最初から聞きに行く、教えてもらいに行くというイメージになってしま

いますから、それなら参加しないということになってしまいます。

委員長

せっかく目指すところにも書いてありますので、みんなが関わっていくということをより鮮明にだしたほうが、逆に来ていたけるのかなという気がします。聞くほうも色々な立場で聞いていただいているのでそれは良いのですが、関わり方のほうがどのような立場の関わりになるのかを考えていただいているのかわかりません。今は今井先生が一生懸命力を入れていただいていますので、それであれば大会などはできていないでしょう。

キャンプが2泊3日になる件は、別に悪いわけではなく、それなりに効果があると思います。この年代だけで実施していても仕方がないことですが、今までの効果をどこで出すかだと思います。単にマイナスになったというだけではさみしい気がします。

市と同じレベルの自然体験活動をしているところはしっかり情報を集めて、市として発信していただければと思います。ボーイスカウト、ガールスカウト、夢の学習であればこのような体験活動ができる、子どもの森はこのような目的でこのような方法でこのようなことを実施しているという情報を市から発信してもらうことは一つの方法かなと思います。やはり教育を一番進めて行かなければならない市の役目だと思います。

委員

最初のところで、4年生は市全域で900人しかおられないのですか。

秋キャンプ2学年で参加者対象者が2,000人いないくらいで19人の参加ですので、児童数に対する参加者数は1%になるのだと見ておりました。

事務局

現実には希望者はもう少しあるのですが、受け入れのキャパが、スポーツの森でキャンプ場ではなくロッジで宿泊というやり方をしています。

委員長

教育委員会として、社会教育課として市内の子どもたちの成長を、自然体験を担う部署としての発信をしてもらえたらと思います。

事務局

過去には「遊ぼけっと」というのを発行していましたが、今はしていませんので同じものは発行が難しいかもわかりません。情報をどのように提供していくかスマートフォン等を利用していきながら考えていく時期だと思います。

委員長 それも市の情報だけではなく、もっと広い情報を載せれば載せるだけ読んでいただけたらと思います。各種団体の情報も載れば喜んでもらえると思います。お互いにメリットが出てくるようでしたらいいと思います。

委員 セミナーをしていただけるような組織が受け皿になれば、スマートフォン、タブレットが普及していますので、もっと自由に発信をしていくと思います。

委員 スマートフォン、タブレットが出てきますが、現物があるというのはかけがえのないものがあって、たとえチラシ1枚であっても現物を家に持って帰られるというのは大きいと思います。冒頭で話をしていた「びわ活」の本も現物があったらばらばらとご覧になられますので、行ってみよう、申し込んでみようという気になるのだと思います。先程「遊ぼけつ」という話がありましたが印刷物で発注するのが無理であれば、普通の紙に印刷したものでも、現物がお届けできればいいのではないかと思います。

委員長 最後にこれだけはというのがありましたらお願いいたします。

[意見なし]

事務局 会議の公開・非公開について 公開

あいさつ